

特許紹介

第25巻第6號 昭和14年6月

鉛管接合法

(特許第128860號 特許權者(發明者)青木 了)

此の方法は、先づ接合せんとする一鉛管(2)の先端外部に膠又はゴム製で断面矩形の填料環(3)を緊密に嵌めて他の鉛管(1)に挿入し、兩管の間隙には固形鐵を緊密に挿入し、外部から加熱するのである。而る時は先づ填料環(3)が原位置に於て(矩形なるが故に変位せず)膨脹融着して接合部の深部を環狀に閉塞し、次いで鐵が熔融せられると共に各鉛管の接合部面も幾分熔融状態となり一体を爲して接合を完了するものである(図-1)。

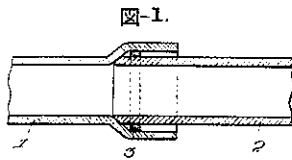


図-1.

鉄管接合法

(特許第128861號 特許權者(發明者)青木 了)

此の方法は、接合鉄管(5),(6)の厚きより稍、薄い厚紙製環を珪酸曹達、膠液及び油煙の混合液に浸して乾燥せしめて接合鉄管の厚き迄混合液の層を形成させた填料環(1)を接手の仕切側面に嵌め込み、而して接合鉄管(5),(6)を接手(3)に挿入して填料環を押し付ける。その後で接合管外壁と接手内壁との間隙に固形鐵を挿入し外部から加熱し混合劑の膨脹融着により鐵の鉄管内への流入を防止し鐵接を完成させるのである(図-2)。

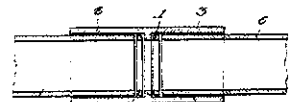


図-2.

石綿代用鑛滓綿製造法

(特許第1,5964號 特許權者(發明者)廣川八朗)

此の發明は、普通法により鑛滓綿を製造するに際し鐵め其の原料たる熔融鑛滓に酸化マグネシウムを少く共20%以上混和融合せしめる方法で、特に弾力に富み柔軟性ある鑛滓綿の發明を目的としたものである。

コンクリート振動機

(特許第149025號 特許權者(發明者)林 茂木)

此の振動機は、機筐(1)の--側に柄着した振動槓杆(6)の兩端部に振動傳達部(6')を構成し、その脊面に傳達杆(8)を接合し、機筐内に装置した電動機(2)の軸(3)に2個のカム(4)を取付け、傳達杆を交互に進退させる様にしたものであつて、振動槓杆の兩端にある傳達部を等しく振動させることに依りコンクリートの各部に一樣な振動を與へることができるのである(図-3)。

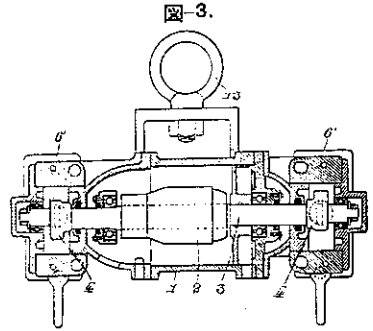


図-3.

基礎柱埋設方法

(特許第128078號 特許權者(發明者)加藤孝一)

此の方法は基礎柱を簡單迅速に埋設する目的を以て考案したもので、地中に埋設した井筒(1)の中央に中空基礎柱(2)を樹立し、其の内部に基礎柱の内周に沿ふて上下動する支棒(6)を懸垂し、之に掘鑿機(7)を廻転自在に支持すると共に、一端に重錘(14)を吊下げた索條の他端を基礎柱の内側下部に結び付け、之を支棒(6)及び基礎柱に設けたローラーに架けて支棒並に掘鑿機に任意の下圧を加へ得る様にし、更に基礎柱の上端に荷重筒(15)を重積して基礎柱の沈下を助勢するのである(図-4)。

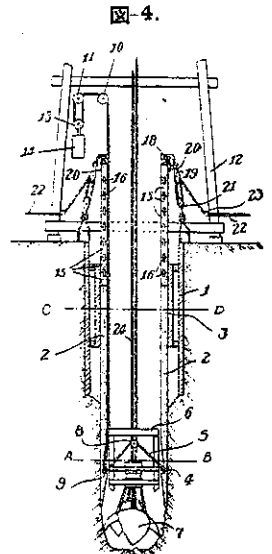
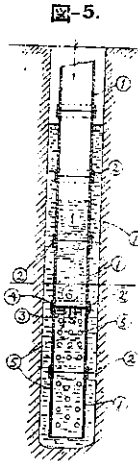


図-4.

水力応用による鑿井管の装入作業方法

(特許第 129082 號
特許権者(發明者) 山根 睦)

従来の鑿井管装入方法では鑿井の進行に従ひ順次接続して井戸内に吊下げる爲數百尺の深さの鑿井では、下部管の重量の爲上方部分の管の接手部其の他から破壊切断する危険があるのを防止する爲本發明を考案したものである。即ち鑿井作業で豫め適宜の小孔(5)を多數管の周壁に設けた下部管(1)の上部接手部(2')に抗張力の左程大ならざる適宜材料の円板(3)を水密に挿入した後、漸次鑿井の進行と共に其の上部に接手で管を接続しつゝ管全体を垂下進行して行く。而る時は井戸内部の深さに応ずる水圧が円板(3)を下方から上方に押圧する故、在來のやうに管(1)は井戸内に懸吊されず寧ろ浮上げられる傾向を有し、接手部等が重量の爲切断する事がない。



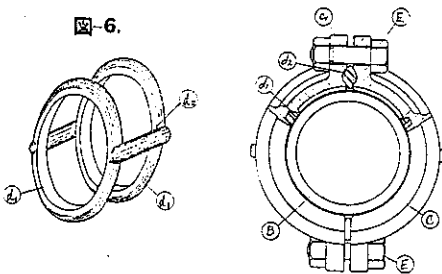
而して深さが進んで遂には管を接続沈下させるに相當の押込みを必要とするに至つた場合、之を調節する爲円板(3)上に適宜量の水(6)を注入するのである。斯くて最後に円板を切断して上下管の井戸水を共通せしめるのである(図-5)。

管接合装置の改良

(特許第 129094 號
特許権者(發明者) 高橋綱吉)

此の管接合装置に於ては、弾性填料として 2 個の円

図-7.



輪 d_1 と之を相互に連結する數個の片 (d_2) よりなるもの (D) を用ひ、之を圧縮密嵌する覆套 (C) は片 (d_2) と同數の弧狀片より成るものを用ひ、覆套 (C) をボルト (E) で緊めることにより前記の d_1 及び d_2 を緊圧挾扼

するやうにしたものである(図-6, 7)。

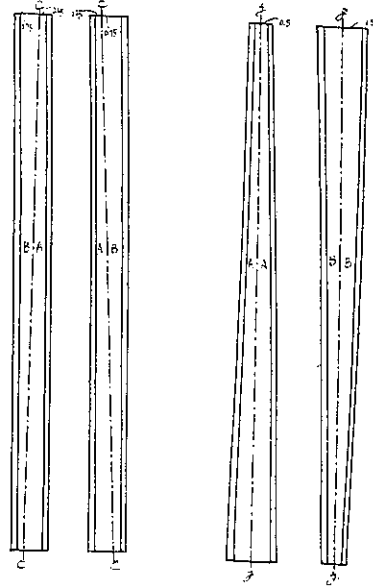
梯形鉄矢板の製作方法

(特許第 129110 號
特許権者(發明者) 小川辰三郎)

従來、楔矢板を製作するには 1 枚の矢板を腹鉞の中央で兩分し、之に双方から梯形鋼板を添接するのである

図-8.

図-9.



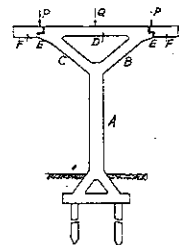
が、此の方法は 2 板の鉄矢板を用ひ之を斜狀等分(例へば 8:1)に裁断し(図-8)、其の断片を交換して継合せて製作するのである(図-9)。

三邊橋脚

(特許第 129151 號
特許権者(發明者) 金森誠之)

此の橋脚は、上部を 2 分し其の上端を連結して三邊 (B), (C), (D) となし、上部材は直接橋面を支持し其の兩端は桁 (F) を支持する構造としたものである。この構造による時は三邊各材は温度の変化による応力を生ぜず、上部材には圧力と張力とが同時に働き互に相殺して其の応力を減ずることができる(図-10)。

図-10.

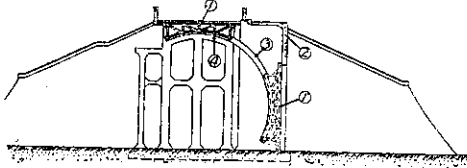


無扉水門

(特許第 149159 號
特許權者(發明者) 金森謙之)

此の發明は、從來水門に於て扉は 1 年に數回使用するに止まるのに 高價な扉を設けてゐる不經濟さに鑑み

圖-11.



考案したもので、特に扉を設けず常に使用する橋梁(4)を移動させて扉の用に供せしめ得るやうにしたものである(圖-11)。圖中點線は橋梁(4)の移動位置を示し、(3)は弧形の軌道を示す。

(附) 登録實用新案

- | | | |
|---------------------|------------------------|--------------------------------|
| 鑿井に使用する壁管継手 | (第 262959 號
實用新案權者) | 公告 13 年第 12801 號
山根 勝 |
| 鉄筋コンクリート製杭 | (第 263302 號
實用新案權者) | 公告 13 年第 16930 號
小西萬吉外 1 名 |
| コンクリートミキサー | (第 263323 號
實用新案權者) | 公告 13 年第 13354 號
山村延一 |
| 軌條連結装置 | (第 263606 號
實用新案權者) | 公告 13 年第 17126 號
都竹徳二郎 |
| 下水管梁用船底型掃除器 | (第 263638 號
實用新案權者) | 公告 13 年第 11823 號
緒田原雅夫 |
| コンクリート杭埋築管 | (第 263723 號
實用新案權者) | 公告 13 年第 16403 號
鈴木正男 |
| 地下槽 | (第 263730 號
實用新案權者) | 公告 13 年第 16863 號
白石多士良 |
| 鉄道線路道床保護器 | (第 263784 號
實用新案權者) | 公告 13 年第 17127 號
堀 捨次郎 |
| セメント乳及砂攪拌混合
送出装置 | (第 264066 號
實用新案權者) | 公告 13 年第 17664 號
壺田岩治 |
| コンクリート杭用沓 | (第 264109 號
實用新案權者) | 公告 13 年第 16576 號
大同コンクリート工業 |
| 踏切装置 | (第 264237 號
實用新案權者) | 公告 13 年第 17501 號
鹿島勘左 |